

第4回 東京グリーンビズアドバイザーボード 意見交換 **議事概要**

- 日 時 令和5年11月16日（木曜日） 13時30分から15時00分まで
- 場 所 東京都庁第一本庁舎42階北塔特別会議室B
- 出席者 安藤委員、小川委員、小林委員、酒井委員、下村委員、島谷委員、吉高委員

**【議事要旨】**

東京グリーンビズを推進していくにあたり、「これからの100年を見据え、東京の緑に必要なこと」をテーマとした小林委員からのプレゼンテーションの内容等について、委員の知見等も踏まえ、意見交換を実施

**【主なご意見】**

- ・相続税納税猶予制度の適用範囲を屋敷林や樹林地などにも拡大するよう国に提案すべき
- ・公園や道路の活用が緑の創出のカギ
- ・緑をマネジメントできる人材の育成が必要
- ・質の高い緑をつくることが重要であり、緑は時間の経過とともに変わるという前提のもと、長い時間軸で計画を考えるべき
- ・企業から緑に資金が流れる仕組みが必要。例えば、企業が寄付する公園については、命名権を付与するなども考えられる
- ・園芸関係のTVに出演している著名人などと、広報活動で連携してはどうか
- ・東京の遺伝的多様性を守って欲しい
- ・地元の生き物の遺伝的多様性の維持、特に絶滅危惧種については遺伝的な背景に配慮した保全をすべき
- ・100mメッシュは、植物に限らず動物も含めた生態学・環境経済学・減災防災・社会生態システムなどの専門家と相談して、科学的根拠のある良いものにできると良い
- ・100年先を見据えると、緑の取組の中に、生物多様性に「自然の恵み」のような引き寄せられる言葉を付け加えたらどうか。人材育成・コミュニティの話もあるので、「育てる」という言葉もあると良い

- ・コミュニティ・人・自然をつなぐことが非常に大事である
- ・小笠原・雲取山の奥地など訪れることが難しい場所がある。VRなどを活用した自然の間接体験も視野に入れることが望ましい
- ・若者に緑の向き合い方を教育する必要がある。自然との共生や自然にやさしくという従来の視点ではなく、自然に生かされているという捉え方が重要
- ・山間部や郊外では「グリーンローカルエコノミー」という言葉があり、生物の多様性と同様に生活の多様性も大事
- ・パートナーシップや、マネジメントできる人材が必要
- ・ZEHやZEBのような国の先を行く緑に関する「東京ルール」を作り、海外にも負けないような特色ある政策を進めるべきである
- ・都民だけでなく、都に来る都外の人やインバウンドにもアピールすべき
- ・虫は嫌という意見があるが、緑は虫なしでは成立しないため環境教育が必要
- ・グレーのところをグリーンに変えるようなイメージを伝えたほうが良い
- ・ニューヨークでは東京湾規模のエリアの水際を緑にしたり、自然再生をやっているので、自然再生の概念が必要
- ・下町、都心、島嶼部など地域ごとにそれぞれの個性を生かした、緑のイメージの絵が描ければ都民には分かりやすい
- ・熊本では産官学民連携で雨庭を造ろうと活動しているが、こうしたパートナーシップがあると良い
- ・生物多様性というと分かりにくいですが、秋の七草のような話をすると分かりやすいので、「緑をまもる」の中に「緑の文化をまもる」などの項目があっても良い
- ・都が都民に何かするというより、コミュニティや企業などと一緒にやるパートナーシップの考えの方が良い

- ・100年先を見据えたまとめ方であるが、緑の捉え方、価値観の変化という視点でまとめるかどうか
- ・2000年代に2つのことが大きく変わってきている
  - ①地域の個性重視の点。地元の遺伝子を重視し、ダイバーシティを確保すること。地域が計画をして、そこを起点に展開する考え方に変化
  - ②地域コミュニティの視点。行政主導から国民主体に変化した
- ・緑の多元的な活用として、緑をツールにコミュニティの再構築をしてはどうか
- ・東京都には多様な自然が存在すること、緑を守るには自然のままでは難しく、人手もお金も必要であることはしっかり伝えるべき
- ・昨今、外資系の投資家が、緑やウェルネスを重要視していること分かるデータ・指標があると良い
- ・国では20年債、海外では100年債などの長期の債権が発行されており、都においても長期かつ個人投資家向けのグリーンボンドの発行が検討できるのではないか
- ・個人投資家の高齢化問題がある。債券や株を相続し、ファミリーで長く受け継いでもらうためには、緑化など魅力のある用途にしていく必要がある
- ・ESG投資に絞るのではなく、より広義のサステナブルファイナンスという表現にすべき
- ・緑は相続人だけではなく、コミュニティなどで守る必要がある
- ・メッシュ毎に緑の目標を掲げ、二次的自然でもあることから、緑が減る場合は開発できないのも酷なので、他の場所で増やすミッティゲーションという方法やお金で解決する方法もあるのではないか
- ・温室効果ガス排出者が、排出量から控除できる吸収量を緑のメッシュの維持管理で取得できるルールを作るのも良いのではないか
- ・木を切った途端にCO<sub>2</sub>排出量が増加したと計算されるが、木材利用による蓄積量をカウントするルールを作るのも良いのではないか
- ・多摩等で小規模のバイオマス発電所を都内の企業や都民出資で設置してはどうか

- ・以前は環境と経済は対立していたが、今では環境が利益の源泉になってきて企業の態度が変わってきた
- ・緑の意義、関わり方について、追加したほうが良い。緑の役割などの絵を作るとイメージが湧く